

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに回復しつつある。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかな増加傾向にある。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

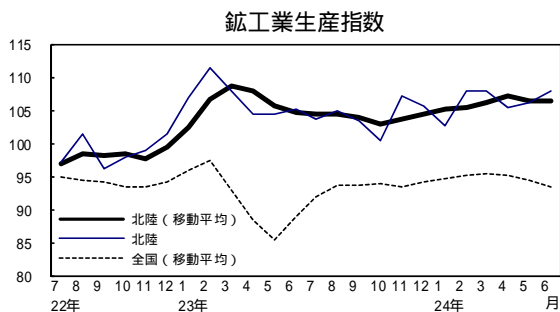
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 5 月)	今回 (平成 24 年 8 月)	
鉱工業生産	持ち直し	<u>緩やかに増加</u>	
個人消費	<u>緩やかに増加</u>	<u>緩やかな増加傾向</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、自動車向けの金属加工機械や半導体製造装置等が増加したことから増加した。電子部品・デバイスは、引き続きスマートフォン向けや自動車向けの電子部品を中心に増加基調で推移した。化学は、後発医薬品(ジェネリック医薬品)等の生産増加を受けて増加した。金属製品は、ビル用のアルミ需要が一服したこと等から減少した。繊維は、非衣料品向けが自動車の生産増加を受けて持ち直しているものの、円高や海外経済の減速等から衣料品向けが低調だったこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	16.2	9.7	4.0	-	-
電子部品・デバイス	15.8	8.3	4.9	-	-
化学	14.5	3.4	1.1	-	-
金属製品	9.2	2.4	5.7	-	-
繊維	8.5	0.1	2.6	-	-
鉱工業	100.0	1.7	0.2	-	-

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

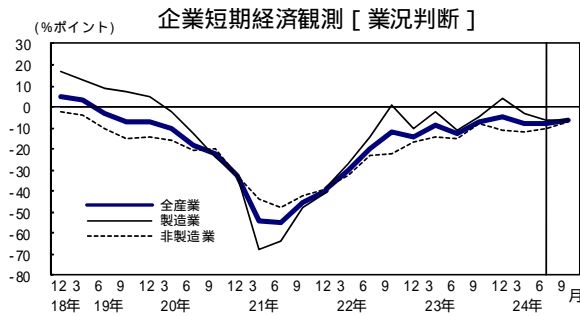
2. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。

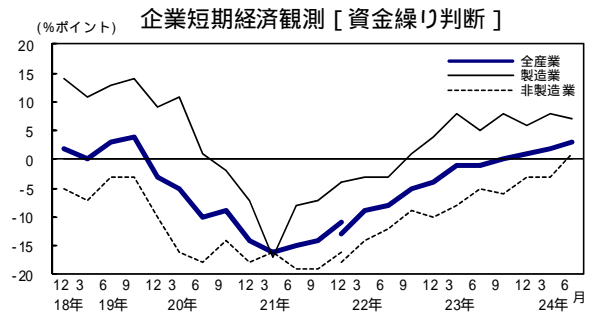
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

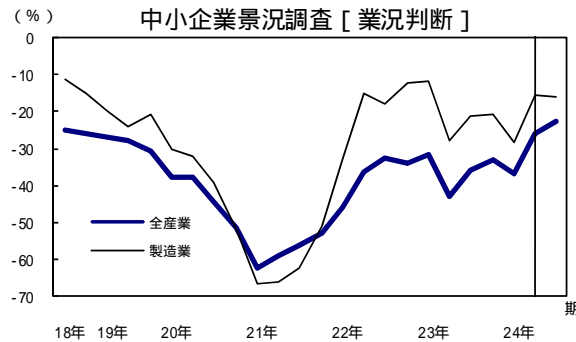
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

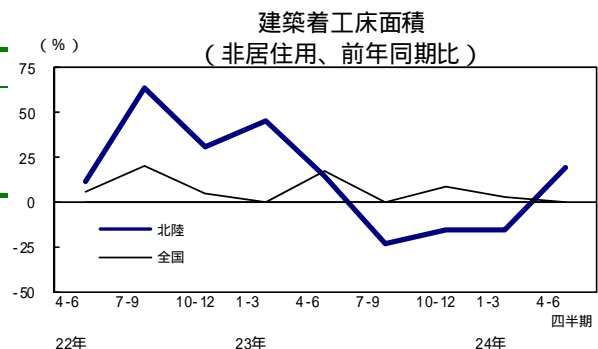
「超円高やユーロ安もあって輸出は大打撃を受けている。加えて、国内市場も決してよくなく、ユニフォーム関連では在庫調整や生産調整が行われ、回復のきざしが見えない。前年同月比マイナスの受注状況が続いている(繊維工業)」など、「変わらない」とする回答が多く見られた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	3.3 (2.8)	17.9 (6.8)
製造業	6.5 (0.1)	20.3 (4.8)
非製造業	6.4 (13.1)	10.0 (15.5)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかな増加傾向にある。

大型小売店販売額

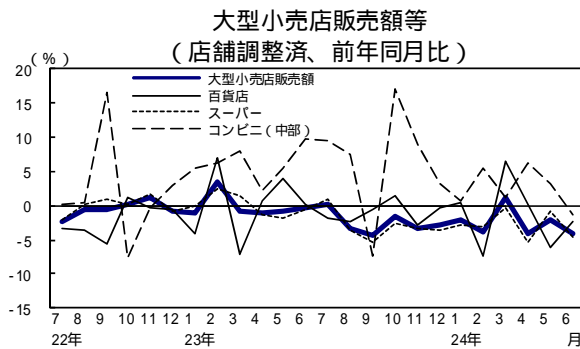
大型小売店販売額は、前年同期比で3.4%減、前期比で1.7%減となった。

百貨店は、4月は、初夏向けの衣料品等に動きがみられたこと等から前年を上回った。一方、5月は、天候不順や低気温、休日の日数が前年より2日少なかったこと等から前年を下回った。6月は、低気温に加え、台風の影響で来客数が減少したこと等から前年を下回った。

スーパーは、低気温や天候不順、台風の影響といった天候要因等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「購買意欲が弱く感じられる。暑い日が続き、最終セールも今一つである(商店街)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	2.4	2.5	1.6	3.4
百貨店(*1)	1.6	0.6	0.0	2.8
スーパー(*1)	2.6	3.2	2.0	3.6
大型小売店(*2)	1.1	1.4	0.6	1.9
(季節調整値)(*3)	(0.3)	(0.5)	(0.1)	(1.7)
乗用車(*4)	16.8	22.6	50.2	64.8
(季節調整値)(*4)	(19.5)	(2.1)	24.2	10.4

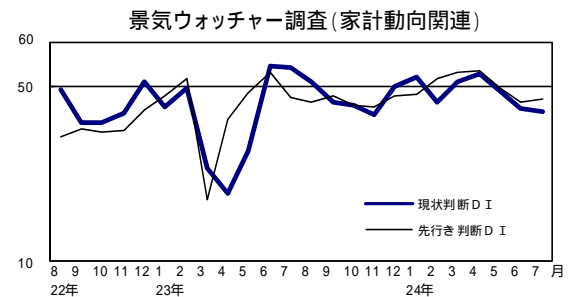
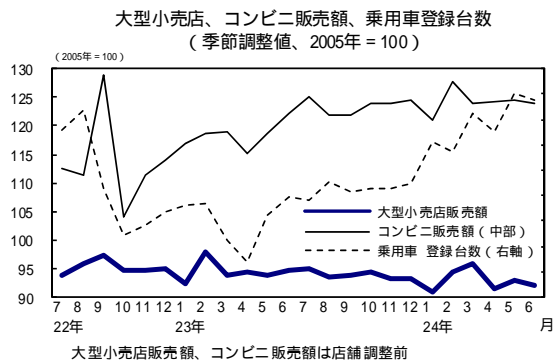
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%) 4-6月は速報値

2. 店舗調整前、前年同期比(%) 4-6月は速報値

3. 店舗調整前、前期比(%) 4-6月は速報値

4. 乗用車は新規登録・届出台数

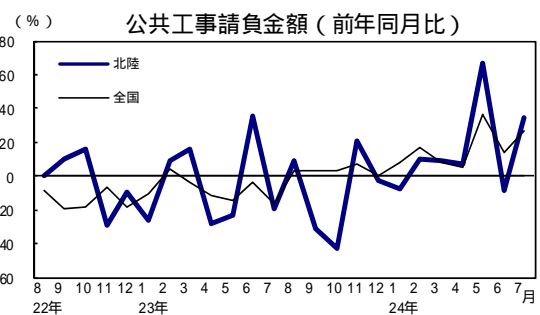
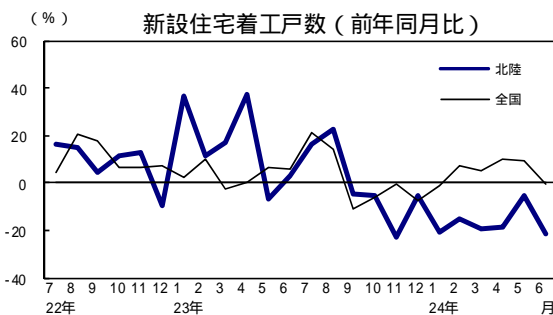
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

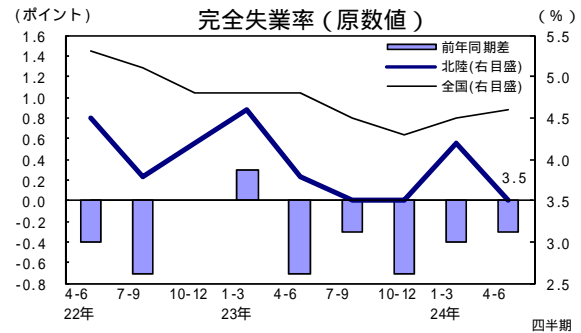
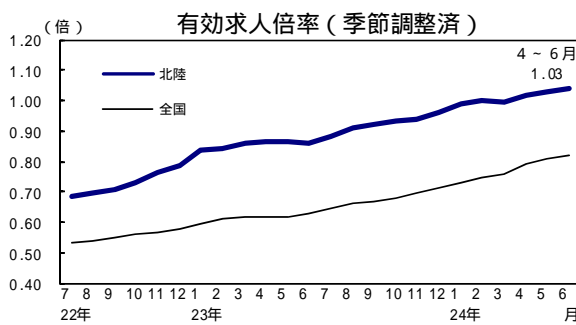


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

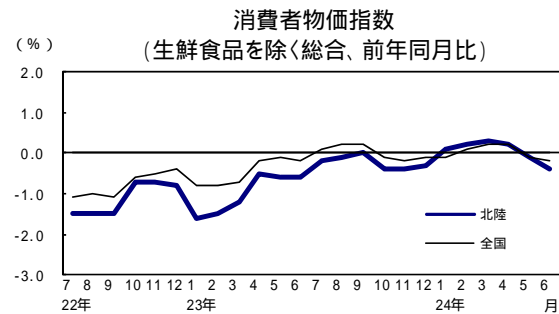
「新規求人数は前年同月比で増加、新規求職者数は減少傾向にある。求人倍率は1倍を超えて推移しており変わらない(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月	24年7月
倒産件数	72	70	87	78	32
(前年比)	28.0	9.1	11.5	27.1	45.5
負債総額	201	238	184	143	80
(前年比)	34.3	15.6	6.2	36.0	205.7



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・イベントなどへの来場者が増えており、客は確実に動いている (住宅販売会社)

<先行き>

・現在の受注量が異常なくらい多いため、その反動は必ず秋口から出てくるような判断をしている (電気機械器具製造業)

